

## 事業事前評価表

### 国際協力機構南アジア部南アジア第四課

#### 1. 基本情報

国名：バングラデシュ人民共和国（バングラデシュ）

案件名：チョットグラム - コックスバザール幹線道路整備事業（E/S）

Chattoqram - Cox's Bazar Highway Improvement Project (E/S)

L/A 調印日：2020 年 8 月 12 日

#### 2. 事業の背景と必要性

（1）当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け  
バングラデシュ人民共和国では、過去 10 年以上に亘る年率 6%強の GDP 成長に伴い交通需要が拡大する中、全交通モードにおける旅客輸送の 7 割、貨物輸送の 6 割を占める道路セクターは、当国の経済成長において重要な役割を果たしている。ダッカからチョットグラムを経てコックスバザールに至る国道 1 号線（以下「N1」という。）は、当国の道路マスタープラン（2009 年）において、国内の主要都市を結ぶ最も重要な幹線道路として位置付けられている。さらに、N1 は、円借款にて建設を支援中のマタバリ港への主要輸送ルートとして、同港と商工業の中心地であるダッカやチョットグラムを繋ぐ貨物輸送の基幹路線となることが見込まれている。

しかし、現在、N1 のチョットグラム以南の区間は片側 1 車線道路であり、かつ十分な幅員が確保されていない。特に市街地区間では、乗用車・バス・普通トラック等の一般車両に加え、リキシャや自動三輪車（オートリキシャ）等の複数の交通モードが混在しているため、慢性的な交通渋滞及び交通安全上の問題が生じている。マタバリ港完成後の N1 は、大型コンテナ車両を含む交通量の著しい増加が予測され、「マタバリ港開発事業準備調査（2017 年）」によると、マタバリ港からチョットグラム（約 130km）までの所要時間は、2017 年の 123 分から 2035 年には 438 分まで増加すると推計されている。

当国政府の「第 7 次五か年計画」（2016/17～2020/21 年度）、「道路マスタープラン」（2009 年）等の各種政策では、更なる経済成長を推進するため、道路の質及び交通安全の向上が掲げられており、主要国道の修繕及び改修を優先課題としている。また、マタバリ港開発は、当国の長期開発課題が定められた「ビジョン 2021」の最優先事業であり、日本及び当国政府が掲げるベンガル湾産業成長地帯（The Bay of Bengal Industrial Growth Belt（BIG-B））構想の実現に寄与する事業と位置付けられている。

「チョットグラム - コックスバザール幹線道路整備事業」（以下「本事業」という。）は、マタバリ港の開港を念頭に、主要輸送ルートである N1 のチョット

グラム - コックスバザール間の市街地区間において、フライオーバー及びバイパス道路等を建設し、円滑かつ安全性の高い旅客・貨物輸送に貢献するものであり、当国政府の政策と合致する。

(2) 道路セクターに対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け  
対バングラデシュ人民共和国 JICA 国別分析ペーパー（2019 年 3 月）において「運輸・交通」が重点課題であると分析しており、対バングラデシュ人民共和国国別開発協力量針（2018 年 2 月）における重点分野としても「中所得国化に向けた、全国民が受益可能な経済成長の加速化」において、国際標準に則った質の高い運輸・交通インフラを整備し、人とモノの効率的な移動を促進させ地域の連結性向上に貢献することが掲げられており、本事業はこれらの分析・方針に合致する。また、本事業はマタバリ港の利用促進を通じた近隣諸国との輸送ネットワークの効率化、並びに連結性強化の観点から、「自由で開かれたインド太平洋構想」における「②経済的繁栄の追求」に資するものである。さらに、SDGs ゴール 3.6（道路交通事故死傷者半減）及びゴール 9（インフラ構築）にも貢献すると考えられる。

なお、道路セクターにおける JICA の支援実績としては、技術協力「橋梁維持管理プロジェクト」（2015 年～2018 年）、円借款「カチプール・メグナ・グムティ第 2 橋建設及び既存橋改修事業」（2013 年承諾）、円借款「クロスボーダー道路網整備事業（バングラデシュ）」（2015 年承諾）等がある。

### (3) 他の援助機関の対応

アジア開発銀行（ADB）は、バングラデシュを中心とする近隣諸国との域内貿易の促進のため、経済回廊の整備を戦略的に支援していく方針を示しており、チョットグラム - コックスバザール間においては、「SASEC Chittagong-Cox's Bazar Railway Project Phase 1」により鉄道網の整備を支援している。

## 3. 事業概要

### (1) 事業目的

本事業は国道 1 号線のチョットグラム - コックスバザール間の主要市街地においてフライオーバー及びバイパス道路等を建設することにより、同区間の交通の円滑化とマタバリ港へのアクセス向上を図り、もって沿線地域の経済発展及び当国の物流促進に寄与するもの。本借款は上記事業の詳細設計、入札補助等に係るエンジニアリング・サービスを対象とし、本事業の円滑な実施促進を図るもの。

### (2) プロジェクトサイト／対象地域名

チョットグラム管区チョットグラム県及びコックスバザール県

### (3) 事業内容

1) 道路改良(市街地区間5か所におけるフライオーバー及びバイパス道路の建設、並びに一部区間の拡幅・線形改良)

2) コンサルティング・サービス(F/Sレビュー、詳細設計、入札補助、施工監理、交通安全対策の実施等)

本借款では本事業のためのコンサルティング・サービスのうち、F/Sレビュー、詳細設計、入札補助を対象とする。

(4) 総事業費

約90,000百万円(うち、本借款対象額:1,906百万円)

(5) 事業実施期間

2020年8月~2023年11月を予定(計40ヶ月)。コンサルティング・サービス(E/S)終了時(2023年11月を予定)をもって本借款を完了とする。

(6) 事業実施体制

1) 借入人:バングラデシュ人民共和国政府(The Government of the People's Republic of Bangladesh)

2) 保証人:なし

3) 事業実施機関:道路交通橋梁省道路・国道部(Roads and Highways Department, Ministry of Road Transport and Bridges。以下「RHD」という。)

4) 運営・維持管理機関:RHD

(7) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動

本事業は「マタバリ港開発事業」(E/S借款2018年度承諾、第一期2019年度承諾)で建設中のマタバリ港を発着地とする貨物の主要輸送ルートであるN1の交通を円滑化するもの。また、N1では地域連結性の向上を目的とした円借款「クロスボーダ道路網整備事業(バングラデシュ)」により4橋が建設中である。

2) 他援助機関等の援助活動

特になし。

(8) 環境社会配慮・横断的事項・ジェンダー分類

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類:A

② カテゴリ分類の根拠:本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月公布)に掲げる影響を及ぼしやすい特性に該当するため。

③ 環境許認可:協力準備調査及びE/Sにて確認。

④ 汚染対策:協力準備調査及びE/Sにて確認。

⑤ 自然環境面:協力準備調査及びE/Sにて確認。

- ⑥ 社会環境面：協力準備調査及び E/S にて確認。
- ⑦ その他・モニタリング：協力準備調査及び E/S にて確認。

2) 横断的事項

本事業は交通混雑の緩和を図るものであり、気候変動対策（緩和策）に貢献する可能性がある。詳細は本体事業検討時に確定する。

3) ジェンダー分類：【ジェンダー案件】GI (S) (ジェンダー活動統合案件)  
 <活動内容/分類理由> 本事業の建設工事では、男女で同水準の賃金とし、女性雇用枠を設定する予定。また、実施機関内に設置される事業実施ユニットにおいても女性を積極的に採用する。よって、ジェンダー活動統合案件に分類。

(9) その他特記事項

N1 の本事業対象区間では、日本・バングラデシュ政府間の PPP 事業に係る覚書（2017 年 6 月締結）のもと、PPP による高速道路建設事業が検討されている。同事業が実施される場合、本事業で建設する道路は同 PPP 事業で運営される高速道路の一部となることが想定されているが、PPP 事業の幅員や設計速度等の規格は先行する本事業の道路規格と整合するように設計が行われる予定。また、本事業における本邦技術の活用可能性については、詳細設計を通じて検討し、当国関係機関と協議する予定。

**4. 事業効果**

(1) 定量的効果

1) アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (〇〇年実績値)	目標値(〇〇年) 【事業完成〇年後】
年平均日交通量（台／日）	本体事業検討時に設定予定	
平均所要時間（時間）		
旅客数（千人／年）		
貨物量（千トン／年）		

2) インパクト

本体事業検討時に設定予定。

(2) 定性的効果

対象地域の物流及び沿線地域の経済発展。渋滞緩和による温室効果ガス排出量の削減。なお、温室効果ガス排出量に関しては定量指標が収集可能な場合に定量的効果として勘案。

(3) 内部収益率

本体事業検討時に設定予定。

## 5. 前提条件・外部条件

- (1) 前提条件  
特になし。
- (2) 外部条件  
特になし。

## 6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

モロッコ向け円借款「カサブランカ市南部バイパス建設事業」(評価年度 2007 年)の事後評価等から、バイパス道路を建設する場合、地域分断回避の観点から、最新の現場情報を反映した設計図面に基づく社会配慮面に係るアクションプランを作成し、地域住民への情報開示、事前協議を十分に行い、協議結果に基づく必要な数の横断構造物を計画・設計に取り入れることが重要との教訓が得られている。本借款では、これを踏まえ、地域住民への事業説明及び事前協議を行い、地域住民の意見を構造物の計画・設計に反映できるよう詳細設計を行う。

## 7. 評価結果

本事業は、当国の開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力方針・分析に合致し、慢性的な交通渋滞及び交通安全上の問題が生じている N1 において、チョットグラム - コックスバザール間の主要な混雑区間での道路整備を通じて、マタバリ港を発着地とする貨物を含む旅客・物流促進や、沿線地域の社会・経済発展に寄与するものであり、SDG ゴール 3.6 (道路交通事故死傷者半減) 及びゴール 9 (インフラ構築) にも貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

## 8. 今後の評価計画

- (1) 今後の評価に用いる指標  
本体事業検討時に設定予定。
- (2) 今後の評価スケジュール  
本体事業検討時に設定予定。

以 上